

3 - 1 南関東精密歪測量結果

Earth's Strain Measurements in South Kanto District

国土地理院測地部 地殻活動調査室
Geodetic Division and Crustal
Activity Research Office,
Geographical Survey Institute

1970年8月から1972年12月までの南関東地域における精密歪測量によって判明した距離変化は、その都度、本連絡会会報に報告されている^{1)~6)}。その後、長津田村(相模野地域)青野村(南伊豆地域)を中心とする地域の測量を1973年1~2月に実施したので、その結果について報告する。

第1図は、1973年の測定値から、関東震災復旧測量(1924~26年)の改算値、または、伊豆震災復旧測量(1930~31年)の改算値を差し引いて、距離の変化を5cm単位で示したものである。図中、青野村-鉢山間の破線は、鉢山三角点の学術成果が未計算であること、高尾山に関係した破線は、高尾山三角点が再設されたこと、などにより1973年に測定したが、旧成果との比較をしていないことを示す。

相模野地域における距離の変化率 $\Delta S/S$ は $0 \sim 1.4 \times 10^{-5}$ で、北西-南東方向に縮み、北東-南西方向に伸びという傾向にある。これは、この地域における従来の傾向と矛盾していない。

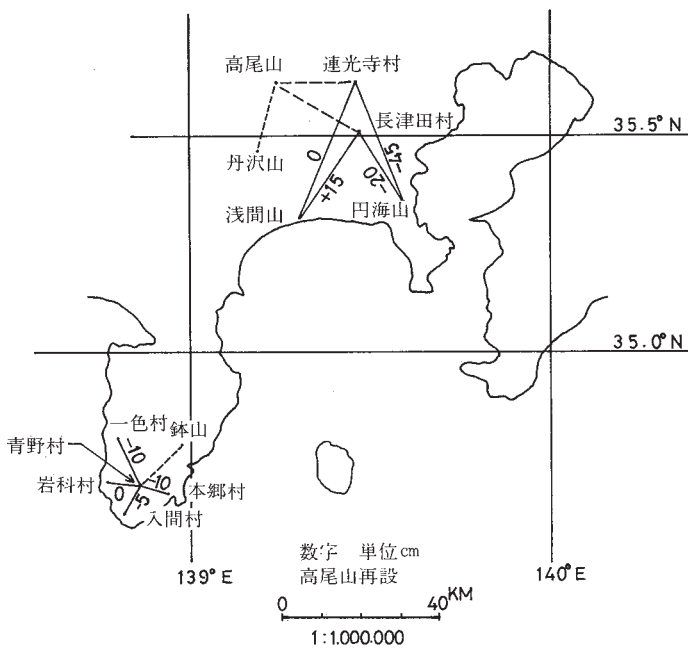
伊豆半島南部地域における変化については、このたびの測量では $\Delta S/S$ が $0.2 \sim 1.3 \times 10^{-5}$ であった。すでに本連絡会会報第8巻に報告された伊豆半島中央部地域(達磨山-遠笠野-巢雲山)の $\Delta S/S$ が $0.4 \sim 1.4 \times 10^{-5}$ であることから⁵⁾、伊豆半島全域は同程度の変化率を示している。

参考文献

- 1) 国土地理院地殻活動調査室、関東南部における最近の地殻水平変動、連絡会会報、4、27-31、1970
- 2) 国土地理院地殻活動調査室・測地部、関東南部における最近の地殻水平変動(2)、連絡会会報、5、31-34、1971
- 3) 国土地理院地殻活動調査室・測地部、関東南部における最近の地殻水平変動(3)、連絡会会報、6、25-32、1971

- 4) 国土地理院地殻活動調査室・測地部, 関東南部精密ひずみ測量中間報告, 連絡会会報, 7, 20 - 21, 1972
- 5) 国土地理院地殻活動調査室・測地部, 南関東の地殻変動(4), 連絡会会報, 8, 23 - 26, 1972
- 6) 国土地理院測地部・地殻活動調査室, 南関東の精密歪測量結果, 連絡会会報, 9, 40 - 41, 1973

関東南部路離測定結果



区 間	1973.1 II	※ 旧 成 果 I	II-I	$\frac{\Delta S}{S}$
連光寺村-円海山	32122.47 ^m	32122.92 ^m	-0.45 ^m	$\times 10^5$ 1.4
" - 浅間山	36941.06	36941.06	0.00	0
長津田村-円海山	19489.10	19489.32	-0.22	1.1
" - 浅間山	26163.05	26162.89	+0.16	0.6

区 間	1973.2 II	※※ 旧 成 果 I	II-I	$\frac{\Delta S}{S}$
青野村-本郷村	7016.99 ^m	7017.08 ^m	-0.09 ^m	$\times 10^5$ 1.3
" - 入間村	7941.82	7941.86	-0.04	0.5
" - 岩科村	6676.96	6676.95	+0.01	0.2
" - 一色村	13531.74	13531.86	-0.12	0.9

(注) ※ 関東震災復旧測量(1924-26)による改算値

※※ 伊豆震災復旧測量(1930-31)による改算値

第1図 精密歪測量から見出される距離変化
(1973 - 1924 ~ 26), (1973 - 1930 ~ 31)

Fig. 1 Distance changes in South Kanto District (1973-1924~26),
(1973-1930~31) unit : cm